

北海道拓殖鉄道 学習レポート

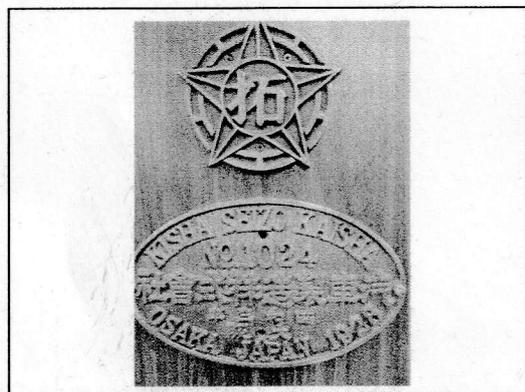
拓鉄が走っていた頃...

北海道拓殖鉄道株式会社(拓鉄)は昭和3年に新得から作られ、昭和43年廃線になるまで、40年間鹿追町と共に歩み続けた。当時は、トラックがなかったので全部鉄道で物を運んでいた。おもに、木材やビートなどを運搬していた。そのころ、十勝には、鉄道がたくさんあった。当時は新得から東瓜幕まで1時間30分かかっていたそうだ。

鉄道建設は全て手作業で行っていた。そのため、とても時間がかかって大変だった。

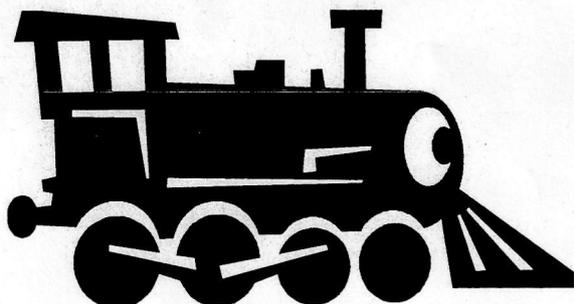
トンネルの入り口に扉があった。寒い時にトンネルに風が入ってくると、天井に氷柱ができてしまい、汽車のガラスが割れるのを防ぐためだ。

我が家の祖父に拓鉄のことを聞くと、当時の切符の写真を見せてくれた。また、「機関車の拓鉄マークを作ったんだぞー!」と教えてくれた。



拓鉄を学習して

今回拓鉄のことを勉強して、鹿追に拓鉄が走っていたことを初めて知りました。授業で昔拓鉄が走っていた道を探検して楽しかったです。また、おじいちゃんに話を聞いて、ためになりました。鹿追に拓鉄が走っていたことを知らない人に教えてあげたいです。



あとがき

パソコンでレポートを作るのが大変でした。文字を打つのがあまり早くないからです。でも、完成してうれしかったです。

